

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's 広場

関連リンク

資料室



HOME | 資料室 | 一般教養 | 中東の歴史 | 中東の歴史 (1)

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

社会保障

労使トラブル法律相談Q&A

労働関係法

経営全般

人間関係とコミュニケーション

ライフプラン

男女共同参画

公務員関係法

日朝の歴史

7つの習慣

中東の歴史

ボランティア活動

環境活動

社会貢献活動

自己啓発

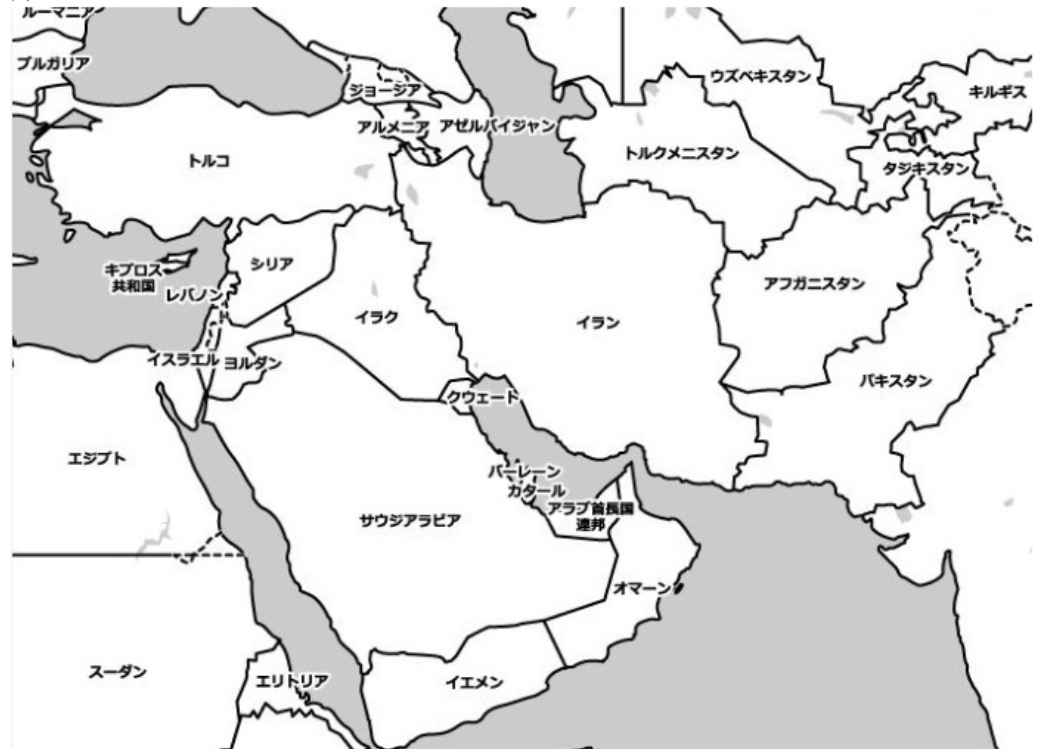
生涯学習

外交・防衛問題

資本論

中東の歴史 (1)

世界の火薬庫であり続けている中東の歴史。国々の歴史をたどることで紛争の火種が見えてくるのであろうか。



豊富な石油資源をめぐる争いやイスラエルとパレスチナ問題など、21世紀になった今も戦火が止むことはない中東。

アジア、ヨーロッパ、アフリカのつなぎ目である中東には、紀元前から複雑な民族と宗教の問題があった。

1万年前、石器の時代が過ぎ、青銅器時代を超えると、農業の発達に伴い、治水工事や灌漑工事などが大河のほとりでも盛んになってきた。

4大文明の始まりだ。

ティグリス・ユーフラテス川の流域で興った文明を「メソポタミア文明」と呼ぶが、農耕民と牧畜民が混在するメソポタミアでは戦乱が繰り返され、部族対立の激しい社会が形成された。

メソポタミア南部（現在のイラク）に前1800年ごろ誕生した古バビロニア王国は、6代ハムラビ王の時代にメソポタミア全域を統一した。

王が発布したハムラビ法典は領域国家をまとめる役割を果たし、後世に大きな影響を与えた。



教育カリキュラム

日本国憲法

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら



灌漑農耕は、メソポタミア・エジプトからシリア・パレスチナに広がって、一つに結ぶ三日月のような肥沃な農耕地帯をつくり、古代ローマ人から“日の昇る方向”のオリエントと呼ばれたが、それは、やがて中近東全体をさす言葉となった。

肥沃なオリエントに、インド・ヨーロッパ語族が侵入して先住民を征服、アッシリア帝国によるオリエントの統一を果たす。

アッシリア帝国滅亡後、エジプト・リディア・新バビロニア・メディアの4国分立時代を迎える。

前7世紀末、ペルシア人がアケメネス朝ペルシアを建国し、オリエントを統一した。

アケメネス朝はインド・ヨーロッパ語族のイラン（ペルシア）人が建てた最初の帝国だ。

メディアに従属していた小王国ペルシアは反乱を起こしメディア・新バビロニア・リディアを滅ぼし、エジプトも併合していった。

アケメネス朝はマケドニア王国や北西インドにまで領土を拡大したが、前330年、マケドニア王国アレクサンドロス大王の東方遠征により滅亡した。

アレクサンドロス大帝は大王死後、武将の抗争により3国に分立した。

マケドニア王国、エジプト王国、シリア王国である。

その後も地域の覇権をめぐる抗争が収まることはなかった。

(つづく)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録
お申し込みはこちらです。

>>> 一覧へ戻る

🗺️ サイトマップ 📄 このサイトについて 🛡️ 個人情報保護の取組みについて

🏠 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.